Ｚ－75－Ａ　簿記論〔第一問〕－解　答－

①	❶	570, 000	②	❶	1, 330, 000
③	❶	100	④	❶	60
⑤	❶	2, 000, 000	⑥	❶	20
⑦	❶	160			
⑧		け	⑨	⑧⑨で❶	14, 400
⑩	❶	1, 493, 000			
⑪		き	⑫	⑪⑫で❶	523, 300
⑬		け	⑭	⑬⑭で❶	157, 800
⑮	❶	2, 856, 000			
⑯		そ	⑰	⑯⑰で❶	288, 000
⑱		か	⑲	⑱⑲で❶	30, 000
⑳		と	㉑	⑳㉑で❶	71, 100
㉒	❶	2, 400, 000	㉓	❶	23, 250
㉔	❶	5, 000	㉕	❶	1, 936, 000
㉖	❶	540, 000	㉗	❶	1, 300, 000
㉘	❶	1, 200, 000	㉙	❶	279, 900
㉚	❷	3, 984, 950			

Ｚ－75－Ａ　簿記論〔第二問〕－解　答－

問１

（単位：円）

記　号		金　額	
①	❶　い	②	❶　660,000
③	❶　せ	④	❶　484,000
		⑤	❶　324,000
⑥	❶　お	⑦	❶　460,000
		⑧	❶　1,060,000
⑨	❶　う	⑩	❶　320,000
		⑪	❶　400,000
		⑫	❶　310,000

問２

（単位：円）

記　号		金　額	
		⑬	❷　6,494,554,720
		⑭	❷　196,740
⑮	❶　こ	⑯	❷　4,560
⑰	❶　い	⑱	❷　54,720
⑲	❶　こ	⑳	❷　156,060

Ｚ－75－Ａ　簿記論〔第三問〕－解　答－

（単位：円）

番号	金　　額		番号	金　　額	
①	❶	161,000	⑲	❶	1,038,600
②	❷	30,900,000	⑳	❶	400,000
③	❶	239,499,300	㉑	❷	1,296,000
④	❶	1,163,000,000	㉒	❷	2,250,000
⑤	❷	79,854,200	㉓	❶	562,500
⑥	❶	13,757,464	㉔	❶	5,030,000
⑦	❷	154,000,000	㉕	❶	4,612,200
⑧	❷	560,000	㉖	❷	440,000
⑨	❶	1,700,000	㉗	❶	1,500,000
⑩	❶	275,000,000	㉘	❶	1,600,000
⑪	❶	32,290,000	㉙	❶	1,724,000,000
⑫	❷	518,400	㉚	❶	2,649,701
⑬	❷	1,700,000	㉛	❷	350,000,000
⑭	❶	5,140,000	㉜	❶	3,080,000
⑮	❷	233,311,747	㉝	❷	1,500,000
⑯	❶	45,472	㉞	❶	4,592,632
⑰	❷	1,968,750	㉟	❷	30,000
⑱	❶	152,000	㊱	❶	946,092

簿　記　論【総評】

〔はじめに〕

あらゆる資料形式で様々な設問が可能である簿記論の特徴が顕著に見られた印象である。定型的な資料の問題を機械的に解くだけの力ではなく、臨機応変な対応力が試される問題であり、個々の難易度と全体的な分量は標準レベルであったものの、体感的な取り組み易さについては、少なからず個人差が生じたかもしれない。合格ラインは、簿記論としては、やや高い水準になると予想される。

〔第一問〕

純資産会計をメインテーマとして、圧縮記帳、外貨建有価証券などについても問う総合問題であった。個々の内容はいずれも標準レベルであるが、全体としての分量は多く、時間的な余裕はなかったであろう。推定の要素も各所に盛り込まれており、株数、割合、年数、為替レートなど、解答要求も多岐にわたり、丁寧に資料を読み取りながら解き進める必要があった。分配可能額(㉚)を除いて、14～15カ所程度を正答できていればよいであろう。

予想ボーダーライン：14点～15点

〔第二問〕

問1は吸収分割の会計処理、**問2**はストック・オプションの会計処理について問うものであった。いずれも、部分的に難度の高い設問が含まれているものの、時間的には余裕の持てる分量であり、資料形式に惑わされることなく、平易な部分を確実に得点できたかがポイントとなろう。①～⑩、⑬～⑲のうち、勘定科目の部分を中心に、13～14カ所程度を正答できていればよいであろう。

予想ボーダーライン：15点～16点

〔第三問〕

商品販売業を営む企業に関する総合問題であるが、通常の決算整理型ではなく、前期末及び当期末の閉鎖残高勘定の内訳が与えられ、普通預金の収支その他の資料から期中取引等を推定し、損益勘定を作成するものであった。これは、期首と期末の残高を参照して勘定分析により期中取引・決算整理を把握するという典型的な構造の推定問題であり、手際よく解き進めるためには、勘定分析が必要であるという点にできるだけ早い段階で気づく必要があった。とはいえ、商品売買関連の部分を後回しにする戦略はやむを得ないものであり、固定資産以降の部分を中心に、17～19カ所程度を正答できていればよいであろう。

予想ボーダーライン：27点～29点

〔合格ライン〕

簿記論の予想合格ボーダーライン：57点～59点（ＬＥＣの想定する配点基準に基づく）

配点基準が変われば合格ラインも上下するので、おおよその目安として合格ラインを見るようにしていただきたい。